

高等学校の家庭科教育についての考察

(鹿児島県実態調査報告)

辻 田 ア イ

A Study of Home Economics Education in Senior High Schools
(Research on the Actual Condition in Kagoshima Prefecture)

Ai Tsujita

I ま え が き

家庭科は昭和22年新学制によって新しく誕生した教科である。その時の指導要領家庭科編の「はじめのことば」の冒頭には「家庭科すなわち家庭建設の教育は、各人が家庭の有能な一員となり、自分の能力にしたがつて、家庭に、社会に貢献できるようにする全教育の一分野である。この教育は家庭内の仕事や家族関係に中心を置き、各人が家庭建設に責任をとることができるようにするのである。家庭における生活は各人の生活にとって、大きなまた重要な部分であるので、おのおのは家庭生活において、知的な、能率の高い一役をなすのでなければならない。このために、学校において、家庭建設に必要な要素を改善し、のぼして行くような指導を与える必要がある。」とのべている。そしてこれは、小・中・高校の家庭科教育の中に流れ続けている理念である。

また、昭和24年の新制高等学校教科課程の解説には「新制高等学校は、幸福な家族生活を招来するような経験を与えなければならない……ことに家庭科では、栄養・献立・衣服・家庭経理・住居経理・保育・家庭衛生・家庭看護についての生活経験が取扱われるし……これらの経験はできるだけ多く、男女生徒を一諸にしてやらせるがよい」とのべている。

その後、幾度か指導要領が改訂され、目標・内容などの変更もあったが、その中で一貫して持ちつづけているものは、よりよき家庭、合理的な家庭を經營する能力・態度と衣食住などの生活を処理する技能・技術の習得ということの二つの目標である。社会の一単位である家庭は男女両性の協力により經營するものであるから、明るく民主的な、合理的な家庭を經營するための知識と技術は男女共に必要であることは当然といえよう。

現在我国においては、小学校では、新教育発足当時より男女共学として家庭科教育を進めて来ている。中学校では、職業・家庭科の時代には男生徒にも、ある程度必要な部面だけ家庭科を学習させていたが、技術・家庭科になり、男子向きには工的技術を、女子向きには家庭的技術をというふうに分けている。高等学校では、家庭科は女子のみの教科となっている。

明治初年から終戦に至るまで存在していた家事科・裁縫科という教科目は、今日においては表面には出ていないが、いまもなお、力強い底流をなしている。裁縫は女子にとっては日常欠くべから

ざる技能であったし、家事は生活に必要な知識と技能を提供したので重要視され、女子特有の教科であった。家庭生活のあり方などについては、家事科の一部にも少しはあったが、決してそれは軽視されたのではなく、むしろ、女子教育全体が広義の家政科であって、家庭のあり方については、修身科・公民科が受持った。女生徒のすべてが主婦となるという大前提のもとに、良妻賢母・主婦準備教育であったので、家事科・裁縫科はその技能と理科的知識方面を受持ったのである。学習指導要領が変わってもこの思想を堅持している人も多い。

男女が平等であるというのは人格として平等なのであって、生理的・心理的・社会的には相違している。心理と社会的役割は時代とともにだんだん男女が接近してくるが、全く同じになる日は来ないであろう。教育は子どもたちを今日および明日の生活に適応できるようにみちびくことであるから、男女の教育は多少異なることは当然であるが、男女の教育を過度に区別することや、家庭科を女子特有の教科とすることもまた誤りである。

新教育の家庭科の中心理念は家庭建設すなわち、よき家庭人の育成である。主婦の育成ではなく、有能な家族の一員の育成である。そして男女の共学を基本とするものである。現在、家庭科は小学校においてのみ男女共学にしている。男子に対する家庭科教育は、それだけでよいのであろうか。新制高等学校の解説にのべられているように、幸福な家族生活を招来するような経験を男生徒に与える必要はないのであろうか。

現在、高等学校で、女生徒のみの必修科目として、「家庭一般」4単位が実施されているが、学校の教育課程編成の上からも、女生徒の立場からも、家庭科教師の立場からもそれぞれ困難点・問題点があるようである。このような、いろいろの問題点を考え合せて、高等学校の家庭科教育のあり方を考察してみたいと思い、その一資料として、現在の高校男女生徒を対象として、家庭経営や家庭科学習についての意見を調査した。

II 調査方法と調査対象

調査には質問票を用いた。質問票は頁数の都合でここには掲載しないが、集計表に記載した項目について調査した。

高校第3学年（昭和39年度）男女生徒を対象とした。それは、家庭生活についても、また、家庭科学習内容についても思慮分別の出来ている年頃であると思ったからである。

鹿児島市内・郡部・男女共学・男子のみ・女子のみの高校、各課程など考慮して次の高校に依頼した。

鶴丸高校……………男女……………普通科
 鹿児島工業……………男女……………工業科
 玉龍高校……………男女……………普通科
 鹿児島商業……………男……………商業科
 鹿児島女子……………女……………商業科・家政科

鹿兒島園芸…男女…園芸科・家政科
 鹿兒島高校…男女…商業科・工業科
 照国高校…男女…商業科・工業科・家政科
 指宿高校…男女…普通科・家政科
 指宿商業…男女…商業科
 娃穎高校…男女…普通科・工業科
 鹿屋高校…男女…普通科
 鹿屋農業…男女…農業科・家政科
 鹿屋女子…女…商業科・家政科
 加世田農業…男女…農業科・家政科
 鹿兒島水産…男…水産科

この調査集計に用いた課程・教科別の人数は次のとおりである。

総人数……………4116

男生徒全員……………2437

普通科…………… 525
 商業科…………… 433
 農業科…………… 406
 園芸科……………94
 果樹園芸科…80
 農業科……………69
 林業科……………37
 畜産科……………46
 農業機械科…44
 農産化学科…36
 工業科…………… 925
 工業化学科 247
 機械科…………… 237
 電気科…………… 199
 土木科……………86
 建築科……………93
 工芸科……………63
 水産科…………… 148
 漁業科……………35
 水産製造科…74
 機関科……………22
 無線通信科…17

女生徒全員……………1679

普通科…………… 563
 商業科…………… 571
 家政科…………… 521
 農業科……………13
 園芸科…………… 2

果樹園芸科…	8
農産化学科…	3
工業科……………	11
建築科…………	1
工芸科……………	10

集計には各調査項目ごとに調査人員に対すを%を算出した。但し女子の農業科と工業科とは人数が少ないので全員の%計算には除外した。

Ⅲ 調査内容とその集計

1. 現在家庭においてどれだけ家事に協力しているか

家庭の仕事の手伝いという面をとりあげて、分担を定めて協力しているか、全く手伝っていないか、時々手伝う程度であるか、また分担したり手伝ったりする仕事の内容について調査した。第一表及び第二表参照。

2. 家庭の建設や経営は男女の協同責任であることを意識しているか

男女生徒が将来家庭生活を営んだ際に、家庭の経営や仕事については、妻にすべてをまかせるか、夫は家事に口出しをしないか、あるいは、夫も積極的に協力するか、夫婦でよく相談して一方だけの負担にならないように助け合うかについて調査した。第三表及び第四表参照。

3. 家庭科学習意欲について

現在までにどれだけ家庭科を学習したか、また、学習の必要を感じているかについて調査した。第五表参照。

4. 家庭科学習内容についての希望

家庭科ではどのような内容を学習したいと思っているか。現在よりもっと多く学習したいと思っているもの(その一)、少し位は学習しておきたいと思うもの(その二)について調査した。第六表及び第七表参照。

第一表 家事の協力についての集計（その一）

家庭の仕事 の手伝い 男女課程		分 担 し て い る	分 担 し て い な い	と き ど き 手 伝 う	分担したり、手伝ったりする仕事の内容										
					食 事 の 用 意 や 後 か た づ け	調 理	裁 縫	せ ん た く	ア イ ロ ン か け	掃 除	風 呂 た き	弟 妹 の 世 話	買 物	家 計 簿 記 入	家 業
男 生徒 全員		22	21	57	11	6	4	21	12	44	37	4	15	2	22
女 生徒 全員		47	10	43	84	66	24	59	40	80	30	9	62	4	8
男	普通科	13	36	51	9	4	2	16	7	35	36	3	14	1	12
	商業科	21	20	59	18	7	6	19	18	49	23	2	14	4	16
	農業科	32	15	53	8	4	3	22	10	42	46	2	13	1	23
	工業科	20	19	61	11	6	3	22	10	46	38	5	16	1	22
	水産科	22	18	60	11	7	5	25	17	49	43	6	19	3	35
女	普通科	40	12	48	81	61	15	53	38	77	31	9	63	2	7
	商業科	47	9	44	85	63	20	59	39	79	26	8	59	6	9
	家政科	53	10	37	87	75	37	65	44	84	33	11	65	5	8
	農業科	85	0	15	100	92	54	85	38	85	62	15	85	23	23
	工業科	0	0	100	91	91	0	45	27	91	27	9	82	0	0

第二表 家事の協力についての集計(その二)
 農・工・水産科の教科別集計

課程	家庭の仕事 の手伝い 教科	分 担 し て い る	分 担 し て い な い	と き ど き 手 伝 う	分担したり、手伝ったりする仕事の内容										
					食 事 の 用 意 や 後 か た づ け	調 理	裁 縫	せ ん た く	ア イ ロ ン か け	掃 除	風 呂 た き	弟 妹 の 世 話	買 物	家 計 簿 記 入	家 業
農 業 科 (男)	園芸科	32	11	57	12	8	6	25	13	54	44	4	23	5	29
	果樹園芸科	29	6	65	11	5	5	54	24	54	69	0	20	0	5
	農業科	34	16	50	3	1	0	7	6	32	45	1	10	0	28
	林業科	11	22	67	8	0	0	20	14	27	38	5	5	0	11
	畜産科	35	30	35	4	2	2	7	2	30	30	0	7	2	17
	農業機械科	34	97	39	7	5	5	20	5	36	45	2	9	0	45
	農産化学科	42	3	55	7	0	0	7	0	36	36	3	6	0	33
工 業 科 (男)	工業化学科	21	20	59	14	10	1	26	9	46	33	5	20	0	18
	機械科	14	23	63	14	4	4	22	9	49	38	6	18	3	22
	電気科	18	17	65	11	7	1	21	9	47	35	5	17	0	25
	土木科	20	14	66	9	1	0	7	7	30	38	0	6	0	21
	建築科	30	17	53	15	5	4	23	10	34	31	2	9	0	28
	工芸科	18	18	64	11	15	9	33	19	39	46	9	21	6	13
水 産 科 (男)	漁業科	23	17	60	11	3	3	14	11	34	40	0	11	0	9
	水産製造科	24	22	54	15	12	11	38	23	54	43	11	23	5	49
	機関科	23	9	68	5	5	0	23	18	59	55	9	18	0	18
	無線通信科	6	12	82	0	0	6	6	0	47	41	0	18	0	53

第三表 将来の家庭経営についての意見の集計（その一）

将来家庭生活を 営む場合 男 女 課 程		家 庭 の 経 営 や 仕 事 は			
		妻にすべてを まかせる	夫は家事に口 出しない	夫も積極的に 協力する	夫婦でよく相 談して一方だ けの負担にな らないように 助け合う
男 生 徒 全 員		8	3	12	77
女 生 徒 全 員		1	2	9	88
男	普 通 科	19	4	11	66
	商 業 科	4	2	13	81
	農 業 科	5	3	16	76
	工 業 科	5	3	9	83
	水 産 科	8	3	12	77
女	普 通 科	2	2	9	87
	商 業 科	0	2	8	90
	家 政 科	1	1	11	87
	農 業 科	0	0	8	92
	工 業 科	0	0	0	100

第四表 将来の家庭経営についての意見の集計 (その二)

農・工・水産科の教科別集計

課程	将来家庭生活を 営む場合 教科	家庭の経営や仕事は			
		妻にすべてを まかせる	夫は家事に口 出しをしない	夫も積極的に 協力する	夫婦でよく相 談して一方だ けの負担にな らないように 助け合う
農 業 科 (男)	園芸科	5	5	26	64
	果樹園芸科	4	5	17	74
	農業科	7	4	19	70
	林業科	8	0	3	89
	畜産科	2	0	7	91
	農業機械科	2	2	7	89
	農産化学科	5	0	28	67
工 業 科 (男)	工業化学科	5	6	9	80
	機械科	6	3	10	81
	電気科	3	4	9	84
	土木科	5	0	11	84
	建築科	8	3	8	81
	工芸科	8	2	20	70
水 産 科 (男)	漁業科	6	3	0	91
	水産製造科	1	7	20	72
	機関科	14	0	16	70
	無線通信科	12	0	11	77

第五表 家庭科学習意欲についての調査集計

家庭科学習の 程度と 必要度		全く学習したことがない	小学校で学習しただけである	小学と中学校で学習しただけである	高校で「家庭一般」を学習しただけである	Ⅱ、保育、家庭経営など学習した「家庭一般」と被服Ⅰ、Ⅱ、食物Ⅰ	既習の学習で充分である	不十分であるから学習する必要があると思う	家庭科は女性だけ学習すればよいと思う	要があると思う 男性も家庭経営について学習する必要がある
課程										
男生徒全員		5	60	36	—	—	7	36	5	47
女生徒全員		0	0	0	27	73	2	58	1	52
男	普通科	7	56	37	—	—	17	35	12	34
	商業科	2	69	29	—	—	4	31	4	39
	農業科	8	63	29	—	—	5	34	4	56
	工業科	4	59	37	—	—	6	39	3	49
	水産科	3	50	47	—	—	2	40	3	55
女	普通科	0	0	0	63	37	3	59	1	42
	商業科	0	0	0	18	83	1	62	1	56
	家政科	0	0	0	0	100	3	52	1	58
	農業科	0	0	0	38	62	62	31	0	15
	工業科	0	0	100	0	0	0	73	0	45

第六表 家庭科学習内容の希望についての調査集計 (その一)
多く学習したいと思う内容

学 習 内 容 男 女 課 程		家族や家庭生活に関する法律	家庭経済に関する事柄	家庭生活の計画化能率化	栄養や食品について知識	調理実習や食事作法	被服材料や着方についての知識	和服裁縫	洋服裁縫	被服整理	結婚についての知識	保育	住居
		男生徒全員	49	61	56	52	30	26	12	16	22	45	55
女生徒全員	46	76	76	90	88	73	47	76	56	65	80	69	
男	普通科	55	51	55	48	30	25	10	13	20	51	48	63
	商業科	48	62	55	48	28	28	15	20	22	53	53	63
	農業科	31	49	46	41	22	21	10	14	18	42	37	46
	工業科	55	63	60	56	29	28	10	14	24	60	59	70
	水産科	58	69	64	68	42	28	13	17	26	21	76	79
女	普通科	43	70	73	87	87	69	41	77	55	60	83	67
	商業科	39	76	77	92	88	72	40	75	51	66	86	71
	家政科	57	83	77	92	88	78	60	76	62	70	71	70
	農業科	8	23	0	31	31	31	23	62	15	23	23	23
	工業科	27	82	63	100	100	100	63	82	63	73	73	91

第七表 家庭科学習内容の希望についての調査集計 (その二)

少し位は学習しておく必要があると思う内容

学 習 内 容 男 女 課 程		家庭や家庭生活に関する法律	家庭経済に関する事柄	家庭生活の計画化、能率化	栄養や食品についての知識	調理実習や食事作法	被服材料や着方についての知識	和服裁縫	洋服裁縫	被服整理	結婚についての知識	保 育	住 居
		男生徒全員	30	23	23	27	43	45	55	51	46	21	21
女生徒全員	43	17	17	6	9	20	46	16	38	27	9	23	
男	普通科	24	23	21	35	39	40	49	46	41	21	22	13
	商業科	27	20	21	25	41	40	51	43	46	17	17	13
	農業科	38	23	23	24	39	36	46	41	39	23	26	18
	工業科	32	25	22	27	48	46	58	54	48	20	23	13
	水産科	30	24	28	26	49	61	70	68	56	22	26	11
女	普通科	46	20	18	7	7	21	47	16	33	28	11	20
	商業科	45	16	16	6	10	22	53	18	49	27	9	23
	家政科	37	14	18	6	10	18	37	13	33	26	8	25
	農業科	23	8	15	23	8	15	23	15	15	8	0	23
	工業科	73	18	27	0	0	0	36	18	45	9	27	0

IV 考 察

1. 高校男女生徒は現在の家庭生活においてどれだけ家事に協力しているか。(第一表及び第一表参照)

家事の手伝いを分担を定めて手伝っている者と時々手伝う者と合せて、男子で79%、女子で90%が家事に協力しているとみられる。全く手伝っていない者は男女とも普通科に多い。特に男子普通科に多い(36%)。進学のための勉強に親子ともに一生けんめいで親の方から手伝わせないようにしているらしい。普通科の中でも進学率を競う学校に多く(47%)、郡部の学校は平均して24%である。女生徒はどの課程にも協力している者が多いが、特に家政科には分担を定めて手伝っている者が多い。家庭生活の計画化と協力という面の家庭科学習の効果のあらわれと考えられよるこぼしく思う。

次に手伝う内容をみるに、男子は掃除・風呂たきが多く、せんたく・アイロンかけ・裁縫などは自分の物だけであろうが、自分の事は自分でという面で協力しているものと考えられる。農業課程の中の園芸科は鹿児島市内の学校であり、手伝う仕事は各種にわたっているが、農業科・林業科・畜産科・農業機械科・農産化学科は、加世田・鹿屋の農業高校で共に封建的思想の残存している地方であるだけに男子の手伝いは風呂たき・掃除に限られているようである。園芸科・果樹園芸科・水産製造科は共に食品を扱っているからであろうか、食事の用意や調理を手伝っている者が多い。また買物の手伝いも多い。学校の実習で栽培したものや製作した食品を販売する場合には家族のために買物をして帰るものと考えられほほえましく感じられる。

一般的に男女とも家事の各種の面の手伝いを多少なりともしている事を知った。

家業の手伝いは、商業・農業・工業・水産業などの家業を手伝っているのである。

その他の手伝いについては、犬・小鳥・鶏・家畜の世話、庭園・菜園・花園の手入れ、器具の修理、お使い、戸じまり、まきわり、寝床の用意や後かたづけなどでこれらは特に男子に多くあった。

2. 家庭経営は男女の協同責任であることを意識しているか。(第三表及び第四表参照)

将来家庭生活を営んだ際には、家庭の経営や仕事は夫婦同等の責任を持つて助け合っするといふ意見の者が大多数である。妻にすべてをまかせて、男は家事に口出しをしないという者は普通科の男生徒に多い。また、水産科の中でも機関科・無線通信科に妻にすべてをまかせるといふ者が多いのは、船に乗り家庭を留守にする期間が長いので当然の事であろう。この調査によって、家庭経営は夫婦の協同責任である事を意識している事を知った。

3. 家庭科学習意欲について。(第五表参照)

(1) 既習の家庭科学習について

家庭科について全く学習した事がないという者が男子に5%でている。現在小学校では男女共学

で家庭科を学習しているが、この調査対象の高校生の小学在学の時期には、ある一部の学校では男子に学習させていなかったのかも知れない。また、彼等の中学校の時期には、職業・家庭科から技術・家庭科への移行期であったので、職業・家庭科で学習した者もある。女子は小・中学校でも学習し、更に高校では「家庭一般」を学習している。しかし、工業科（女）は小・中学校で学習しただけである。これはこの工業高校は元は男子の工業学校であつたが、新教育で男女共学になって女子は僅か11名入学したので教育課程に家庭科を入れていないとの事であった。普通科の女生徒は「家庭一般」のみを学習したものが多いが、商業科・農業科の女生徒は選択科目も学習している者が多い。一般に女生徒は家庭科を多く学習している。

(2) 既習の学習で充分であるか、不十分であると思うかについて

男女共に既習の学習だけでは不十分であるから更に学習する必要があると思う者が多い。

(3) 家庭科は女性だけ学習すればよいか、男性も学習すべきかについて

男性も家庭経営について学習すべきであると考えたものが男女共に多い。普通科の男生徒には、家庭科は女性だけが学習すればよいと思う者、既習の学習で充分であると思う者が他の課程の男生徒に比べて多い。これは第三表に見られる家庭経営は妻にすべてをまかせるという者が多かったのと考え合せられる。但し、水産科の方は「僕達水産学校の者は船のりになるので船の中では調理も裁縫もしなければならないので家庭科を学習しておかねばならない」といつて学習を希望する者が多い。

(4) 家庭科学習内容についての希望（第六表及び第七表参照）

(その一) 現在よりもっと多く学習したいと思う内容については、男生徒は、住居・家庭経済・家庭管理・保育・栄養や食品などである。女生徒は、食物・保育・家庭経済・家庭管理・洋裁などが多い。しかし何れの項目についても現在よりもっと多く学習したいと希望している。

その他に学習したいと希望しているのは、礼儀作法・道徳・衛生・看護などで男女共にかなり多くの者が希望している。

(その二) 少し位は学習しておいた方がよいと思うものには、男生徒は、裁縫や被服に関する事柄、これは自分の身なりをととのえるために必要であると考えているのであろう。女生徒は、和服裁縫は少し位でよいと考えるものが多い。現在日常着はほとんど洋服化されているし、既製服を購入着用するものが多いので裁縫の学習は食物に比べて必要度も少く希望者も少いのは当然であらう。

V ま と め

この調査によつて、高校男女生徒は、現在家庭の仕事に協力している。将来家庭を建設・経営するのも男女の協同責任であり、夫婦で家事を分担協力すべきである事を意識していて、家庭建設の

教育である家庭科学習の必要を感じ、学習を希望している事を知った。

男子の家庭科教育は小学校だけでは不十分である。中学生にも 高校生にも それぞれの年齢にふさわしい家庭生活についての学習を考えねばならない。特に 高校生には近き将来の家庭生活、自分たちの理想の家庭生活を学習させる機会を与えたいものである。

女生徒についても、現在の家庭科教育の内容では満足していない。彼女達はもつと新鮮味のある高度の内容の家庭科教育を要求している。家庭科学習の必要を感じ、学習意欲をもっているが、今までの家庭科はつまらない、魅力のない教科であると感じさせたのは、指導法の拙さによるものであろうか。

高校の家庭科教育の内容とその効果的指導法及び男生徒に課す家庭科教育の内容については今後の課題としよう。